

2 砺波医療圏における課題への対応

一方、砺波医療圏においても次の課題があります。2026年2月17日に開催された砺波地域医療構想調整会議では、県の委託を受けた富山大学附属病院から、砺波医療圏における医療提供データ分析に基づく現状と課題が公表されました。主な点は、以下のとおりです。

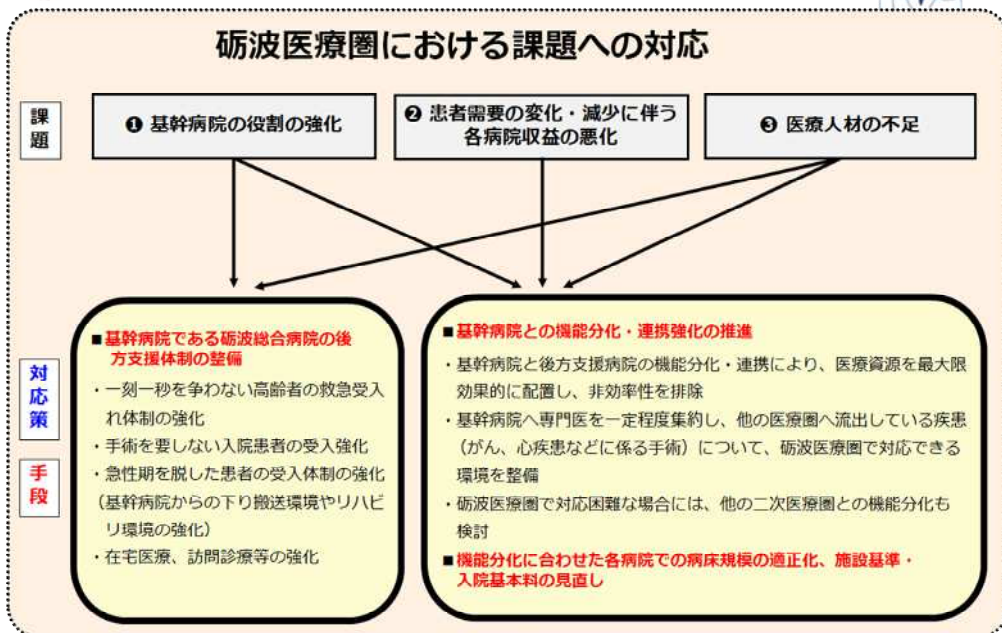
● 砺波医療圏における現状と課題

- ・手術は砺波総合病院が中心で南砺市民病院と北陸中央病院が補充
- ・砺波医療圏では、がんや心疾患の手術患者が富山医療圏や高岡医療圏へ流出
- ・外来患者の約7割が後期高齢者で、今後の増加は見込めない
- ・訪問診療、介護予防を目的とした訪問リハビリテーションなどは需要がある可能性があるが、いずれにせよ、医療従事者の確保が課題
- ・20万人未満の小規模医療圏であり、将来的な医療需要の増加は期待できない
- ・砺波医療圏においては、病院の機能と規模を再検討する必要がある
- ・南砺市立2病院と砺波総合病院の間で、再編統合や機能分化を検討しなければ共倒れの可能性

基幹病院である砺波総合病院が基幹病院としての診療機能を十分に発揮できるよう「基幹病院を後方支援する病院」が必要となります。



【図表2】 砺波医療圏の課題への対応



特集号

市民の命を守る 「地域医療」を未来につなぐために



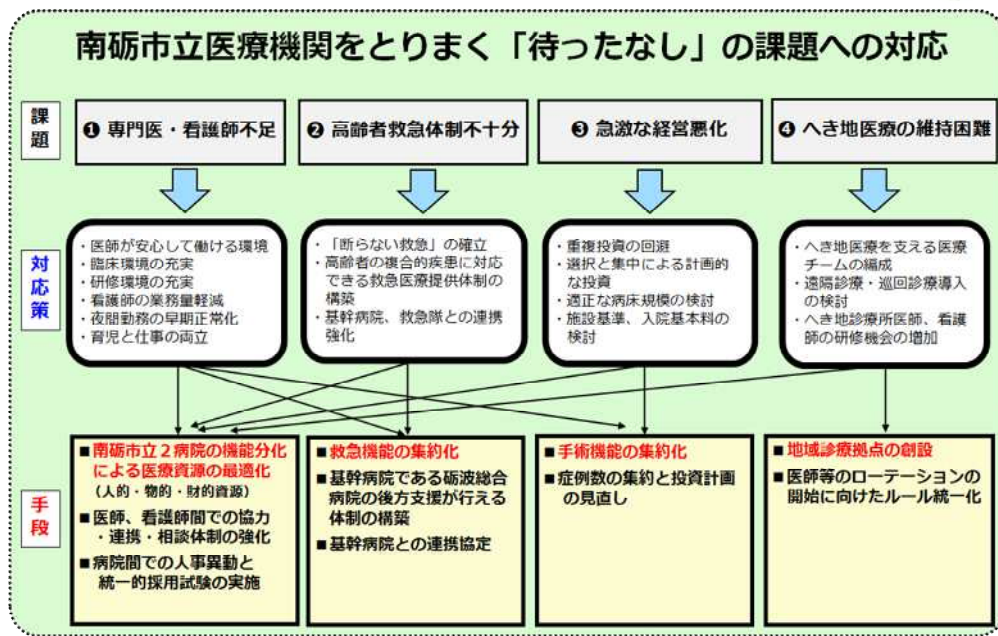
本号の内容について

広報なんと2月号より連載を開始した南砺市立2病院の再編に関する特集について、今回は、南砺市立医療機関における「待ったなし」の課題や、砺波医療圏における課題に対応するため、市が提案している南砺市立2病院の再編内容について、詳しくお伝えします。なお、この再編案については、引き続き、南砺市議会の「医療のあり方検討特別委員会」において、様々な観点から議論されます。

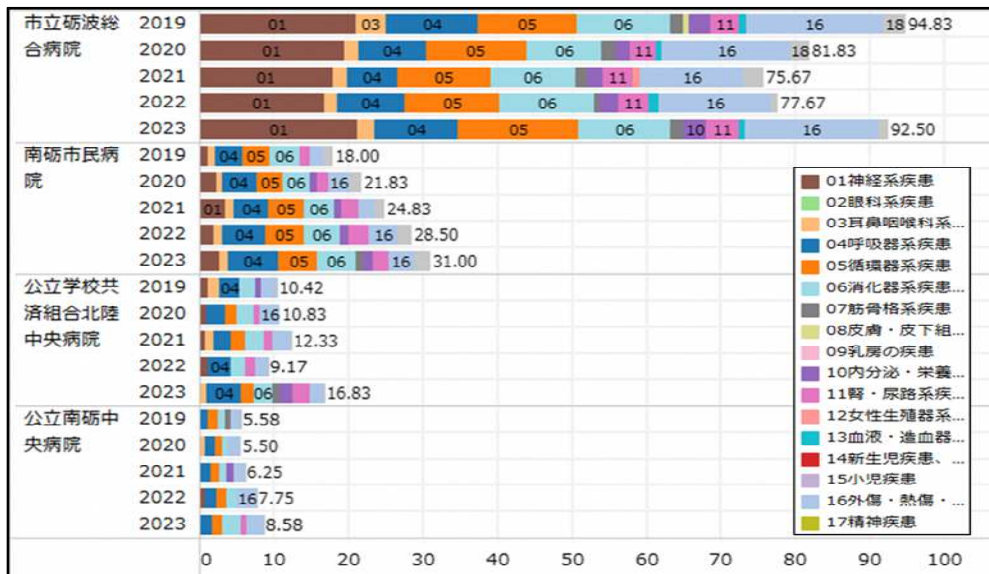
1 市内の課題への対応

市では、多くの自治体病院の再編支援に実績のある経営アドバイザーや県とともに、南砺市立医療機関が抱える「待ったなし」の課題の対応策について協議してきました。市内における課題の解消には、以下図表1に掲げる対応策が必要であり、これを実現するためには、南砺市立2病院の壁を超えた運営体制へと移行していく必要があります。

【図表1】 市内の課題への対応



【図表4】 砺波医療圏における救急搬送入院対応状況（2019-2023）※症例数/月



(2) 手術機能の集約について

手術機能の集約先は、救急機能を集約する南砺市民病院を予定しています。

もう一方の南砺中央病院では、整形外科手術における長年の実績から地域住民の厚い信頼を得てきました。しかしながら、今後の高齢者疾患の増加を踏まえると、高齢者の特性に広く対応できる手術部門が必要となります。

南砺市民病院では、図表5のとおり、高齢者に多い疾患に係る手術を幅広く実施しています。また、図表6のとおり、複数の診療科にわたり常勤医師が多く勤務していることから、術後管理においても高齢者の複合的な疾患や合併症に対応しやすいという利点があります。医療安全面においても、世界基準であるJCI認証や、日本医療機能評価機構による病院機能評価を取得しており、医師が安心して手術を行える環境が整っています。

【図表5】 南砺市立2病院における手術実績（2024年度実績）

手術部門	南砺市民病院	南砺中央病院
① 外科	107件	14件
② 整形外科	34件	279件
③ 眼科	286件	0件
④ 泌尿器科	228件	0件
⑤ 内科（ポート創設）	47件	28件
⑥ その他	48件	9件
合計手術件数	750件	330件



3 南砺市立2病院の再編（案）

南砺市立2病院の再編においては、単に市内の医療課題を解決するためだけでなく、砺波医療圏における課題にも対応できる再編が求められます。市では限られた医療資源を一定程度集約し、基幹病院の後方支援を行うとともに、きめ細やかな地域医療を提供していくための再編案を提案しています。市では、この再編を行う場合、2～3年程度の移行期間が必要と見込んでいます。

【図表3】 南砺市立2病院の再編（案）

医療機能	再編の目的	再編の概要
(1) 救急機能	① 市民の安全・安心を守り、地域医療の質を維持 ② 基幹病院である砺波総合病院を後方支援	1箇所に集約
(2) 手術機能	① 限られた医療資源の最適配置 ② 基幹病院の後方支援病院としての高齢者手術の習熟 ③ 医師が安心して手術を行える環境の整備 ④ 医療機器等の重複投資回避による病院経営の健全化	1箇所に集約
(3) 外来機能	① 市民に身近な診療機能であるため、医師が確保できないなどやむを得ない場合を除き、原則、集約しない	原則、集約しない
(4) 入院機能	① 限られた医療資源の最適化 ② 基幹病院である砺波総合病院を後方支援	機能分化に応じ、適正な病床規模を双方に配置
(5) へき地医療体制	① 医療従事者不足が慢性化するへき地診療の維持継続 ② 民間開業医の高齢化に伴う訪問診療の担い手不足への対応	地域診療拠点を創設

(1) 救急機能の集約について

救急機能の集約先は、常勤医師および常勤看護師が多く勤務し、現在も砺波総合病院に次ぐ救急受入実績のある南砺市民病院を予定しています。同院では、2020年よりドクターカーを本格稼働させ、救急隊と共に患者の救急対応に大きく貢献してきました。また、同院には、消化器系、腎・尿路系、呼吸器系など高齢者に多くみられる疾患に対応した常勤専門医が幅広く勤務していることから、救急搬送患者の包括的管理体制がより充実しています。救急機能を集約化する南砺市民病院では、平日夜間・休日を含めた365日24時間体制での救急搬送の受入に対応し、市内で完結が可能な搬送案件については、原則、全て受け入れることを目指します。

南砺中央病院においては、一定程度の医師数が院内に勤務する平日の日中に限り、受入可能な範囲において救急受入に対応することを予定しています。

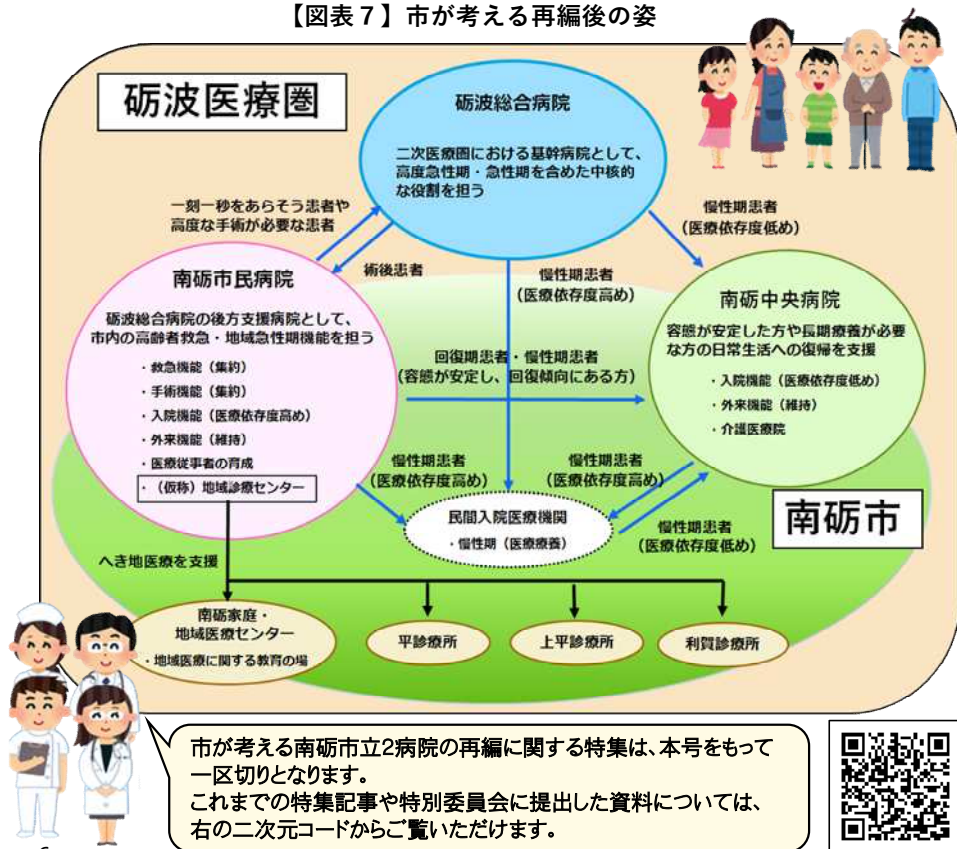
(5) 地域診療拠点

今回の医療再編において、医療従事者の不足が慢性化している山間部におけるへき地診療の維持継続や、民間開業医の高齢化等に伴う訪問診療の担い手不足に対応するため、地域診療拠点（仮称：地域診療センター）を創設します。本地域診療拠点では、持続可能なへき地医療提供体制の構築に向け、遠隔診療や巡回診療の導入などについても検討していきます。

4 再編後の姿（基幹病院との関係）

南砺市立2病院の再編は、市内の医療課題を解消するとともに、砺波医療圏全体の課題に対応していくための未来への再編です。「市立病院単体で完結する医療」から「二次医療圏以上で完結する医療」へと移行し、基幹病院、関連病院と共に地域医療を未来へとつないでいきます。持続可能な地域医療提供体制の構築に向け、市民の皆さまのご理解・ご協力をお願いいたします。

【図表7】市が考える再編後の姿



市が考える南砺市立2病院の再編に関する特集は、本号をもって一区切りとなります。これまでの特集記事や特別委員会に提出した資料については、右の二次元コードからご覧いただけます。



【図表6】南砺市立2病院における常勤医師数（2025.3.31現在）

(1) 大学医局等別

南砺市民病院	医師数
① 金沢大学附属病院	9
呼吸器内科	2
血液内科	2
小児科	1
消化器外科	1
泌尿器科	1
眼科	1
歯科口腔外科	1
② 富山大学附属病院	6
糖尿病代謝・内分泌内科	1
腎・高血圧内科	1
消化器内科	2
放射線診断科	1
総合診療科	1
③ 金沢医科大学	2
整形外科	2
④ 富山県	1
外科	1
⑤ 大学医局等に所属しない	7
内科、外科	7
常勤医師数	25

(2) 診療科別

南砺中央病院	医師数
① 金沢大学附属病院	4
内科	1
整形外科	3
④ 富山県	1
内科	1
⑤ 大学医局等に所属しない	2
内科	2
常勤医師数	7

南砺市民病院	医師数
① 内科	14
金沢大学附属病院	4
富山大学附属病院	4
大学医局等に所属しない	6
② 外科	3
金沢大学附属病院	1
富山県	1
大学医局等に所属しない	1
③ 泌尿器科	1
金沢大学附属病院	1
④ 眼科	1
金沢大学附属病院	1
⑤ 整形外科	2
金沢医科大学	2
⑥ 歯科口腔外科	1
金沢大学附属病院	1
⑦ 総合診療科	1
富山大学附属病院	1
⑧ 小児科	1
金沢大学附属病院	1
⑨ 放射線診断科	1
富山大学附属病院	1
常勤医師数	25

南砺中央病院	医師数
① 内科	4
金沢大学附属病院	1
富山県	1
大学医局等に所属しない	2
⑤ 整形外科	3
金沢大学附属病院	3
常勤医師数	7

※南砺市民病院の常勤医師数25人には、一時的に富山大学附属病院に在籍している2名の医師（総合診療科1名・血液内科1名）を含んでいません。

(3) 外来機能

外来機能については、市民にもっとも近い診療機能であることを踏まえ、1箇所に集約させることなく、南砺市立2病院それぞれに現在の外来機能を維持することを基本とします。ただし、医師の確保が困難な場合や診療科を集約させることで市民の皆さんに提供できる医療サービスが格段に向上する場合には、その診療科に限り、より幅広い外来機能を有する南砺市民病院へと集約していきます。専門医の確保が困難となっていく中でも、地域医療水準を大きく低下させないため、南砺市立医療機関においては、総合診療医や専門医であっても包括的な診療を行うことができる医師を育成できる環境を整えていきます。



(4) 入院機能

南砺市立2病院の入院機能については、再編による機能に応じ、病床数の適正化をはかった上で双方の病院に配置する予定としています。救急機能と手術機能を集約させる南砺市民病院には、医療資源を多く必要とする高齢者中心の入院病床を配置し、南砺中央病院には、日常生活への復帰を支援するための入院病床を配置します。